



印刷部数 108,500部 発行人・編集人 吉川 豊

定価 五十円 (年間購読料 千八百円) 購読料は組合費のなかに含まれています

東京土建一般労働組合 東京都新宿区北新宿1-8-16 電話03 (5332) 3971 (代表) FAX03 (5332) 3972 ホームページ http://www.tokyo-doken.or.jp/

巨大グローバル企業に對峙するアルファベットユニオンの小林佐保さん。グーグルのミッション、民主主義的なウエブ実現のためには、経営自体が民主的である必要があります。(関連記事3面)

グーグル労組委員長に聞く

アクションが変化を生み 要求を実現する



杉並区議会で意見書採択の瞬間。25人の議員が起立

杉並 インボイス延期採択、23区で初 区民の思い議会動かす

インボイス延期の意見書が杉並区で採択されました。東京では小金井市、西東京市に続き3例目、23区では初の選挙で議会構成が変わり、変化が生まれています。

【杉並・書記・喜多正之通】6月19日の杉並区議会本会議で、インボイスの実施延期を国に求める意見書が23区で初めて採択されました。今回の意見書は、個人が出した「インボイス延期」の陳情が6月6日の区民生活委員会で賛成多数賛成5反対3で採択され、本会議では議長除く47人中、25人が賛成して採択されました。4月の区議会議員選挙で議会構成が大きく変わってからは、最初の議会でのことです。杉並支部でも委員会採択を受け、役員中心に本会議前の13日に会派要請を行ない、当日の本会議も傍聴。採択の瞬間に立ち会い、その後、会派訪問も行ないました。

実は、杉並区議会は陳情の審査率が低く、昨年5月に杉並区議会に杉並支部が提出したインボイス中止の陳情は審議すらされず、廃案になっていました。しかし区民の区政への関心が高まるなか、一昨年の総選挙、昨年の岸本区長

アスベスト 建材メーカー4社、再上告 許し難い時間稼ぎ

ニチアス(株)以下ニチアスを含むアスベスト建材メーカー4社は、神奈川の差し戻し審の高裁判決で5月31日に賠償を命じられましたが、6月14日までに再上告を決めました。どこまでも被害者に向き合えない、時間稼ぎの許しがたい暴挙です。首都圏統一本部はニチアスに対し、6月21

日の正午から、本社前で同社が真摯な謝罪と補償基金制度に応じるよう、宣伝行動を56人(東京土建は51人)の参加で行ないました。本部の松本久人副委員長は、「製造メーカーとして責任を果たしてほしい。原告のうち約8割がすでに亡くなっている。私達には時間がない」と述べました。

原告共同代表の吉田重夫さんは、「(株)サワが和解に



ニチアス本社前で訴える

じたのは、アスベストの有害性が分かっていたからだ。ニチアスはトップクラスのシェ

アを持っているのに、なぜ和解に応じないのか。私達は今回でもこの本社の前に来て闘う」と訴えました。清水謙一事務局長は「ニチアスはその危険性を充分知りながら、危険性を何ら言う事なく被害者に任せ続けてきた。私たちは和解に応じるまで闘う」とニチアスに向けて訴えました。最後にシユプレヒコールを行いました。ニチアスは正面入り口を固く閉じたまま、声を上げる被害者と私たちを無視しました。



質問に答える湖東さん

幹部学校 湖東氏が消費税を一刀両断 目的は莫大な還付金

誕生などを経て、今年区議選では投票率が43・66%(前回39・47%)に上昇。新人議員が15人当選するなど議会構成は大きく変化し、議長選出でも波乱を起す展開になった。また地道な活動がありまし

税理士の湖東京至さんを講師に招き、6月25日に第48回幹部学校が開催されました。けんせつプラザとサブ会場(各支部)をオンラインで繋ぎ、本部役員、支部四役、支部常任執行委員などを中心に組合幹部が出席。午前は基調講演を聞き、午後は各支部にて感想を出し合いながら、独

た。23日には阿佐ヶ谷・高円寺の2駅頭で、採択された「インボイス延期」の意見書を折り込んだチラシを配りながらの宣伝にも取り組みました。陳情提出者が「他の自治体からも意見書を出すハードルが下がってくれば」と語っていました。20日には渋谷区議会が全会一致で同様の意見書を採択、23区での動きに勢いが出ています。インボイス阻止へ、さらに運動を続けていきます。そしてその本質について、輸出大企業に莫大な還付金を与えるために消費税が導入されたこと、本当は直接税の消費税を間接税らしく見せようとして仕入れ税額控除にインボイスが採用されたことなどを説明し「インボイスがめっちゃくちゃなのは消費税がめっちゃくちゃだから」と語りました。そして、インボイス廃止で広がった運動を消費税廃止につなげようと呼びかけました。参加者からは「インボイスの前に消費税に大きな欠陥があることが分かった」「かみ砕いた説明だった」などの感想が寄せられました。

リニア中央新幹線の2027年開業が難しくなった原因として、静岡県の川勝平太知事が、パッシングさされているという。5月に行なわれたリニア建設を進める期成同盟会の総会で、愛知、山梨、長野、岐阜の知事が「静岡工区での早期着工を」と強い口調で川勝知事に集中砲火を浴びせ、同盟会会長の愛知・大村知事は「スーパーメガプロジェクトを形成し、世界からヒトなどと思いた」。川勝知事は一貫してリニア建設に賛成だ。何も工事の邪魔をしないわけではない。南アルプスでのトンネル工事で大井川の水環境に大きな影響が出ることが懸念されており、その解決策がJR東海から提示されず、工事を許可できないだけなのだ。そして、実はもっと致命的な工期の遅れの原因が他県にあるのだから、それは報じられていない。一般メディアにとってJR東海は大口の広告主だ。大村知事ではないが、よくわからないカタカナが使われる時はあやしいことが多い。財界は早期のリニア開通を強く望んでおり、リニア特別委員会の与党議員からは「小異を捨てて大同意」といった発言も出ている。しかし、生活に直結する水源問題が小異なわけはない。県民のくらしを最優先に国策にノーを言う静岡県知事が頼もしく見えた。



リニア中央新幹線の2027年開業が難しくなった原因として、静岡県の川勝平太知事が、パッシングさ